令和元年度 米沢市・学園都市推進協議会「地域と大学との懇談会」

「吾妻祭」が育んだ連携、さらに

米沢市の学園都市推進協議会（種村信次会長）による「地域と大学との懇談会／学園都市講演会」が去る10月24日、同市のグランドホクヨウで開かれました。今回は、今年で25回目を迎えた山形大工学部発の学園祭「吾妻祭」を切り口に、米沢女子短大との連携、ひいては米沢栄養大とも合流し、特色ある〝地域祭〟に成長した姿を検証しながら、今後のさらなる連携を求めて「高校×大学×地域で育む人材育成力！」をテーマに語り合いました。

種村信次氏

海谷麻尋氏

松田大志氏

鈴木道子氏

飯塚博氏

トークセッション「学園都市米沢から世界へ」 これからの目指すべき地域発信力！

【パネリスト】
- 山形大学工学部長 飯塚博氏
- 山形県立米沢栄養大学学長 山形県立米沢女子短期大学学長 鈴木道子氏
- 山形大学工学部3年 第25回吾妻祭実行委員 松田大志氏
- 米沢女子短期大学2年 第25回吾妻祭実行委員 谷海麻尋氏
- 学園都市推進協議会会長 種村信次氏

▷コーディネーター 酒井豊氏

サイエンスへ興味付け 飯塚氏
地域の人巻き込む効果 鈴木氏
地元の大学の敷居低く 松田氏
友人が大勢できました 海谷氏
地元高校生に呼び掛けを 種村氏
若者の行動生む基地に 酒井氏

目指すべき地域発信力について語り合ったトークセッション ＝米沢市・グランドホクヨウ

酒井 今年で25回目の「吾妻祭」（10月12～14日）を終えての感想をお願いします。

松田 台風の影響で初日が中止となったのは残念で、苦汁の決断でした。2日目、3日目の開催を目指してステージや屋台の移動もありましたが、結果として成功できたと思っています。

海谷 初日（会場・米沢女子短大）だけのイベントもあったのでやはり残念です。2日目からは大勢の皆さんに遊びに来ていただき、何とか問題を乗り越えられたかなという感じです。

酒井 1年かけて準備をしてきて、その中でも〝中止の決断が早かった。事故があっては続けていけないので、今回は社会人になっても生きる経験になったのではないでしょうか。

飯塚 今年は本当に大変でしたが、迅速に対応できた。マネジメントという意味でも良い経験でした。

鈴木 朝、みんなしょげ返っているかと思ったら、てきぱきと動いていました。各人の連携もうまくできていましたね。

酒井 「吾妻祭」の実行委員をやってみようと思ったきっかけは？

松田 高校の文化祭でも実行委員を務め興味を持っていました。3大学合同というのも珍しい。〝学生のまち〟としてヨコ、タテの関係を持ちたかった。

海谷 私も高校時代から携わっていました。米沢でもっと友達を増やしたいと…。実行委員は160～170人もいます。短大にいても友人がいっぱいできました。

酒井 改善点は？

松田 失敗はいっぱいありました。後悔も後輩なりに感じることがあったはずです。

海谷 初めて小学校5校、中学校7校に「お化け屋敷」の案内を出しました。来年は高校生にも興味を持ってもらえるようPRを広げてほしいと思います。

酒井 高校生が来てくれる学園祭は大学としても好ましい。いっそ企画段階から参加してもらったらどうでしょう。

飯塚 高校生向けのイベントは大いに協力したいと思います。工学部の科学フェスティバルには既に参加してもらっていますし、サイエンスへの興味付けにつながれば素晴らしいことです。

鈴木 地域の人を巻き込むという点で、フリーマーケットやチャリティーオークションの技術を発信するか。そのためには〝人材〟です。このところ山大工学部に入る地元の高校生が少ない。この状況をぜひ打開したいものです。そうした中で「吾妻祭」は絶好の機会。きっかけです。高校生にぜひ呼び掛けて、大学との接点を育んでほしいと考えます。

飯塚 「吾妻祭」のような機会を利用して、工学部を身近に感じてもらい、入学して学び、卒業して、そしてこの山形・米沢の地域と世界を結びつけるような活躍をしてほしいと思います。

種村 山大工学部は研究成果の事業化、ベンチャー育成など、大きな力を発揮しています。今後さらに、企業と大学を結び付ける人材育成にぜひ取り組んでもらいたいと希望します。

酒井 米沢という地域は、市（行政）があって、大学があって、企業があって、3者がとてもうまく連携しています。これからの時代、地域がどれだけのコンテンツを持ち、いかに発信力を高めるかが問われます。25年という歳月をかけて地元に根を下ろした「吾妻祭」を引き続き支えていただき、若者の新たな行動を生み出す発信基地となるよう期待します。

講演

学園都市米沢が生んだ地域祭「吾妻祭」 吾妻祭創成及びチームマネジメント経験から今、必要とされるチーム発信力を考える！

APRESIA Systems株式会社（アプレシア システムズ）
カスタマーサービス部部長
酒井 豊氏

第1回「吾妻祭」（1995年）の実行委員長を務めました。まず、この祭りがどのようにして生まれたのかを紹介します。

私は東京・浅草の出身です。祭りは身近にありながら、日常と非日常が入れ替わる魅力的な贈りものです。上下関係なく楽しめて、一体感を持ち、社会性を身に付けられる、庶民の文化です。

当時、私は都内の高等専門学校から山大工学部の3年に編入していました。目に入ってきたのは、あまりにもふがいない工学部祭です。屋台が6軒、スタッフは2、3人、客はほとんどなし、祭り気分などまるでありません。ある教授が「本気でやるやつ（学生）なんかいないよ」。その言葉が私に火を付けました。

「今度の学園祭は違う！」一心で

それならオレが（来年）1年限定でやってみよう！ 目指したのは、地域の祭りを再現し、大勢の人に来てもらえる学園祭にする。そして米沢女子短大とのサークル化を進めることです。

ちょうどそのころ、山大工学部は山形市への移転構想で意見が割れていました。地元米沢市としては当然残留してもらいたいとの意向です。学園祭が成功すれば、地域の人が（この大学に）もっと目を向けてくれる。チャンスだと捉えました。

商工会議所や青年会議所を紹介してもらい、すぐ足を運びました。そして出会ったのが学園都市推進協議会の方々です。新しい学園祭構想は、推進協のコンセプトに一致するとして協力を確約してくれました。このアクションがなければ、決して前には進めなかったでしょう。

「今度の学園祭は違うぞ！」。その一心で動きました。市や商工会議所に協賛をいただき、企業にも応援要請を行いました。フリーマーケットとチャリティーオークションには市民に出店をお願いし、商工会議所や青年会議所の方々と一体になってPRを重ねました。

同時並行して、米沢女子短大との合同祭とする可能性を探りました。実現すれば大きな成果です。国立大と県立短大との垣根を越える、まともにいったら不可能かもしれません。しかし、これこそ地域貢献の一つ。米短の皆さまから快く賛同していただき、両校の先生方からも多くのご支援を頂いたことで、初の合同祭開催につなげることができました。

祭りの名前は後に投票で「吾妻祭」と決まりました。

実行委員は50人になり、屋台37軒、入場者は2日間で2千人に達しました。タレントにも出演オファーを行い、女優の加藤紀子さんと、今では政治に幅広く活躍の山本太郎さんが来て会場を沸かせました。

私は1回限りの実行委員長でしたが、2011年に恩師が工学部長に就任したのを機にアドバイザーとして関わりを再開しました。今や実行委員が160人を超える分厚い組織に成長し、米沢栄養大にも輪が広がっており、ライブ、フリーマーケット、お化け屋敷、カラオケ大会、ミスター&ミスコンテストなど充実しています。

マネジメントのマネージは、そもそも「何とかする！」という意味です。私は「吾妻祭」で得た貴重な経験を、今でも会社の管理職におけるマネジメントに生かすことができていると感じます。行政、大学、地元企業や地元住民の皆さんが一緒に応援してくれるのは米沢の特徴です。私は皆さんから頂いた恩を少しでも米沢に還元すべく、これからも「吾妻祭」のサポートを継続していきたいと思います。皆さまにおかれましても、地域祭に育った「吾妻祭」への温かい支援を引き続きお願いいたします。